

こと、霖雨や旱魃の際は領内一八ヶ村は言うに及ばず、藤沼庄二四ヶ村の人民もまた挙げてここに祈念
することを例としたといわれる。

祭日は旧四月四日及び九月九日である。

※貞観六年は千百年前

詣藤沼神社詩

郡宰 柴坂懿典

巒間驚見不時沼 連日晴天水末乾

松葉送嵐琴韻響 藤花映浪鏡光寒

風吹石虎嘯山殿 雲起鱗龍廻樹檀

草創神靈如在地 二千年事凝眸看

(話者 加藤忠太郎・磐瀬次郎)

羽 黒 大 権 現

《下江花》

江花字中島の氏神として祀られていたが、明治のはじめ、藤沼神社に合祀され、今はその面影を残す
だけとなった。

高い参道の石の階段は、部落の人の奉仕によって造られたといわれている。県道より数メートル登る